

令和4年度 第2回京都市保健所運営協議会 摘録

令和5年1月18日（水）
午後1時30分～午後2時40分
ハートンホテル京都2階「嵯峨・高雄の間」

1 出席者（敬称略） *はWEB参加

<委員>

○ 関係団体代表委員

京都府医師会：松田 義和	京都府歯科医師会：岸本 知弘*
京都府薬剤師会：夏目 君幸*	京都市保健協議会連合会：堺 紀恵子
京都市食品衛生協会：太田 眞一*	京都府理容生活衛生同業組合：佐藤 正一
京都府美容業生活衛生同業組合：（欠席）	京都府旅館ホテル生活衛生同業組合：松本 義正*
京都府公衆浴場業生活衛生同業組合：（欠席）	

○ 各区地域保健推進協議会代表委員

北（西陣医師会）：（欠席）	上京（上京東部医師会）：（欠席）
左京（左京医師会）：（欠席）	中京（中京保健協議会連合会）：山本 真澄
東山（東山医師会）：原田 剛史*	山科（山科区健康長寿推進協議会）：福島 直人
下京（下京西部医師会）：井上 治*	南（南保健協議会連合会）：藤井 富美子*
右京（右京医師会）：（欠席）	西京（西京民生児童委員会）：（欠席）
伏見（伏見保健協議会連合会）：（欠席）	

<事務局>

○ 京都市保健所

京都市保健所長：池田 雄史	京都市保健所次長：谷利 康樹
京都市保健所参事：有本 晃子	

（健康長寿のまち・京都推進室／健康長寿企画課）

健康長寿のまち・京都推進室長：阪本 一郎	健康長寿企画課長：工藤 直之
健康長寿推進担当課長：絹村 円	計画推進担当課長：田賀 千津

（医療衛生推進室／医療衛生企画課）

医療衛生推進室長：志摩 裕丈	ワクチン担当部長：吉田 就一
医療衛生担当部長：南 秀明	医療衛生企画課長：中濱 正晃
感染症企画担当課長：今崎 匡裕	感染症対策担当課長：井上 ひろみ

（障害保健福祉推進室）

施設福祉課長：北垣 政治

（子ども家庭支援課）

子育て世代包括支援担当課長：寺山 京美

2 開会挨拶

池田保健所長

3 議事

○ 議題・報告（1）会長及び副会長の選出について

⇒ 事務局（健康長寿企画課）から資料説明のうえ、従来どおり、会長には京都府医師会の松田委員、副会長には京都府歯科医師会の岸本委員に引き続き就任いただきたい旨を提案し、全会一致で承認。

4 議事

○ 議題・報告（2）新型コロナウイルス感染症に係る京都市保健所の対応状況について

⇒ 事務局（医療衛生企画課）から資料説明。

【質疑応答】

松田会長： 今般の第8波において、高齢者を中心とする死亡率の増加が見られるのではないかと、という意見がある。行政の認識をお伺いしたい。

志摩室長： 新型コロナの死亡者の状況については、これまでから京都府でまとめて分析し、資料として公表・報告がされているので、公式な見解ではないが、オミクロン株が流行してから感染者が多くなり、その中で亡くなりになる方も多くなるという傾向はあるかと思うが、感染者に対する死亡者の割合としては、この間ずっと下がってきている状況である。その中で、第7波と比較すると、これまでの波に比べて、感染拡大からの期間が少し長引いているため、その分、死亡者数は増加してきているとは言えるのではないかと思う。オミクロン株以前のように、感染されてから肺炎が悪化し、コロナ特有の状況でお亡くなりになるというよりも、高齢の方がお体弱ってお亡くなりになったり、基礎疾患の悪化によりお亡くなりになるというケースが増えてきているため、感染から一定期間経ってからお亡くなりになる方が多いという意味で言うと、少し期間が長引いている分、死亡者数が増えているという状況は言えるのではないかと思うが、正確な分析については、今後実施していきたいと考えている。

○ 議題・報告（3）令和3年度京都市保健所運営方針取組結果等について

⇒ 事務局（各所管課）から資料説明。

【質疑応答】

松田会長： 前回会議において依頼させていただいた子宮頸がんワクチンの接種勧奨について、歯科医師会、薬剤師会の施設においてご協力いただいたことに御礼を申し上げます。

岸本副会長： 歯科医師会として今までそのような横の繋がりがなかったため、医療機関としても今回の取組は非常に好評で、会員の方にもスムーズに対応していただけたと認識している。多くの情報が錯綜している中で、本当に大事な情報というのは様々なところで啓発していくことが大事だと思っているため、今後もこういった繋がりを持つことができ

ればと思う。

夏目委員：薬剤師というのは若年層にも接点があるということで、会員の方もぜひ参加したいという意見が出ていたため、そのようなお話をいただき、非常に感謝している。

松田会長：まだ接種率が上がっていないという報告もあるため、引き続き、ご協力いただきたい。

○ **議題・報告（４）令和４年度各区地域保健推進協議会（部会）の開催状況等について**

⇒ 事務局（健康長寿企画課）から資料説明。

【質疑応答】

なし

（その他 質疑応答等）

松田会長：医師会としては、小児ワクチンも含めて、新型コロナワクチン接種に協力する立場で積極的に対応しているつもりではあるが、なかなか保護者等の対応を見ると難しいと感じることがある。最近是我々や行政の説明だけではなく、マスメディア、YouTube等、様々な情報をキャッチされる若い方が増えており、根拠の不確かな情報を判断材料にされているケースもあろうかと思う。この辺りに関してはYouTube等による行政の広報活動が始まっているということもあるため、従来の手法にとどまらず、若者向けにどのような広報をしていったらいいか、引き続きご検討いただきたい。

吉田部長：新型コロナワクチンについては、接種が進むにつれて情報が多くなり、不安に思われる保護者や関係者の方が多くいらっしゃる。やはり行政がこれまでやってきた「市民しんぶん」や市政広報板ポスターといったものが若い方にはなかなか届きにくいということもあり、今回、オミクロン株対応ワクチンの接種が始まった際には、Twitter等のSNSの活用や、今タイムパフォーマンスを重視する子ども達が多いということで、30秒の動画を作る等、そういうことも意識させていただいている。今後、行政が多くの方に情報発信する際には、従来の手法によらず相手方に届くような形で実施していくことが大事だと考えており、引き続き、検討してまいりたい。

松田会長：どうしても従来の手法に縛られてしまうこともあるが、世の中もどんどん変わってきているため、若い世代に対してもう少し訴求できる新しい方策というものを、我々も含めて皆で考えていければと思う。

藤井委員：コロナ禍以前は各学区で少なくとも1年に1回は集団健診があったが、この間できてなかったという状況がある。今後も早期発見、早期治療に繋げるため、なるべく早くコロナ禍前の状況に戻ってほしいと思っている。

また、南区の場合、ヘルスピア21（京都市健康増進センター）が令和5年3月で閉館になるということで、非常に残念に思っている。安くて質が良く、指導員の方もずっと続けられており、昔から来られている方に関しては良く分かっているためアドバイスが的確で、トレーニングに加えて介護予防という意味でもすごく良い場所だった。京都市の財政も大変だと思うが、少しは改善したということも聞いている。南区は公

共施設が少ないという思いもあるため、ヘルスピア21の存続、もしくは、それに代わるものの建設をお願いしたい。

松田会長： 集団健診の会場に関しては、コロナ禍で従来の小学校ではなかなか難しいということもあり、現在、区役所を中心とした健診に集約されており、一部医師会としても協力させていただいているところである。住民のニーズとしては、従来どおりにという意見もあるが、いかがか。

事務局： 集団健診の担当部署が本日不在にしているため、聞いている範囲内で申し上げると、松田会長がおっしゃるように、感染対策等を考慮して、今は区役所で実施している。いただいた御意見については所管課にも伝えてまいりたい。

田賀課長： ヘルスピア21については平成5年に設置しており、当時は近隣に類似施設もなかったが、近年、市民の皆様の健康志向の高まりもあり、今や類似施設が民間等により随分充実してきている状況である。また、施設の設備も30年が経過する中で相当な老朽化をしており、その改修費用を公の施設として負担する必要性に乏しいのではないかと考えており、今年度末をもって廃止をさせていただくということとした。現在ご利用いただいている方には、近隣の施設等の御案内のリーフレットも配布させていただいているが、そちらも参考にしながら、引き続き、健康づくりを続けていただけるように、ご選択いただければと考えている。

岸本副会長： 全体を通じてのことだが、今本当にコロナ関係の話題が多く出ており、様々なところが逼迫しているのは重々承知の上だが、京都市は「健康長寿のまち・京都」、「子育て環境日本一」も謳っておられるので、やはり生産年齢、現在、各年齢の人口分布などを見ても、1桁の年齢のお子さんは京都市では約9,000人、50代がベビーブームの時代と言われたのは、大体1学年で2万人ぐらいいたと思うが、人数だけでいくと半分以下になっており、今財政が厳しい中で楽観できる状況ではないと思っている。施策の充実は、非常に住民としては大事なことだが、やはりそのお金は税金から賄うことが必要になっているため、1人あたりの税金の単価を上げると京都市から人が離れていくということで、京都市で働いておられる方で、京都市にお住まいじゃない方も非常に増えてきていると思う。近隣の亀岡市や滋賀県などから京都に働きに来られている方がおられるが、そういった方を京都市に住んでもらえるようにするためには、どうしたらいいかということも非常に大事になってくるかと思う。これは保健の話を超えた話だが、やはり生きていく上で健康に対してのサポートが充実しているということが、子育てを考えておられる方にとっては、住みやすい場所になってくると思う。この保健所運営協議会の意味というのが非常に、私は深いところにあると思っており、やはりどうしてもコロナ関係に終始してしまう部分があるが、もう少し俯瞰的に長い目で見ていく施策というのも大事だと思うため、意見として述べさせていただいた。

有本参事： 現在、出生数は徐々に減ってきており、1万人を少し切るぐらいで、コロナ禍ではさらに少なくなっている。出生率を増やすということは、子育て支援対策はもちろんだ

が、それ以外の施策、京都市全体のまちづくりが大きく関わってくるところである。保健所の事業としては、昨今はコロナが1番の大きな問題だが、それ以外の部分についても充実させていかなければならないし、子どもに関することや、その他健康全般に関する事、それを京都市の中で保健所がどのように充実させていくかというところを、広い視野で考えていかなければならないと考えている。

松田会長： 他府県に転出された方に対して、調査みたいなもの、役所が短いアンケートでも良いが、何故転出されたのかというところもフィードバックをすると、何か見えてくるものがあるのではないかと思っている。

5 開会挨拶

谷利保健所次長